

逆走対策技術カタログ
～物理的・視覚的対策～

【技術名】

ウェッジランプ

1.基本事項 (1 / 3)

技術番号	No.1		
技術名	ウェッジハンプ		
型式番号	—		
企業名	大成ロテック株式会社		
問合せ先	電話	[TEL] 03-5925-9437 [FAX] 03-3362-5808	
	E-mail	kazunobu_mutou@taiseirotec.co.jp	
	住所	〒160-6112 東京都新宿区西新宿8-17-1	
	担当部署	建設事業本部 技術部	
対策箇所数	全10箇所 【R6.3.31時点】	NEXCO 東日本	—
		NEXCO 中日本	1箇所（日本平PA）
		NEXCO 西日本	1箇所（伊芸SA）
特許関係	意匠登録第1446913号		
設置状況	<p>管理用道路</p> 		

1.基本事項 (2 / 3)

技術概要

舗装面にくさび型の非対称の段差（ウェッジハンプ）を設置し、走行時の衝撃により逆走車両に注意喚起を行う技術である。

- ・ 逆走車両に衝撃で注意喚起
- ・ 順走車両の走行には支障を与えない形状

【走行イメージ】



● 順行時はスムーズ（運転に支障なし）



● 逆走時は振動と衝撃音で警告

1.基本事項 (3 / 3)

技術の強み・長所

- ・体感(衝撃)による注意喚起を行うため、見落とすことがない。
- ・段差部分に超高強度繊維補強コンクリートを使用しており、大型車が走行しても十分な耐久性がある。

技術の短所・留意点

- ・段差を有することから、除雪作業や積載物への影響が考えられるため、走行速度が低い位置の設置が望ましい。
- ・順行方向においても、ウェッジハンプの通過時、騒音が発生するので、住宅地域などの近隣などは設置場所に留意が必要である。

技術改善内容
(改良・改善記録)

—

2.逆走対策技術としての検証・評価（1／2）

検証箇所（代表例） 沖縄自動車道 伊芸SA（下り）

（技術開発企業による調査結果）

技術の認識度

【対順走車】

- ・ 定点カメラによる観察の結果、順走車の四輪車のうち4%、二輪車のうち33%が当該技術上を通過せず、路肩を通過。ただし、通過後に事故や転倒は確認されず。順走車には大きな影響は無さそう。
- ・ 現地アンケートでは、当該技術の段差に気付いたと回答した者が1回目調査では70.9%、半年後の2回目調査では79.6%。

技術認識時の挙動確認

【対逆走車】

- ・ 定点カメラを設置するも、観察期間中に逆走事案が発生しなかったため、逆走車の技術認識時の挙動は不明。

【対順走車】

- ・ 定点カメラで観察した結果として、当該技術通過直前の急減速や停止は確認されず、当該技術通過後の危険な挙動も確認されず。
- ・ 現地アンケートの結果から、順走車の当該技術通過時の印象として、「気にならない」31.7%、「少し気になる」54.1%、「不快」10.4%、「危険」3.8%。8割以上が特に不快や危険とは感じず。
（ただし、二輪車に限ると、「不快」0%、「危険」33.3%）

※いずれも昼間の評価。

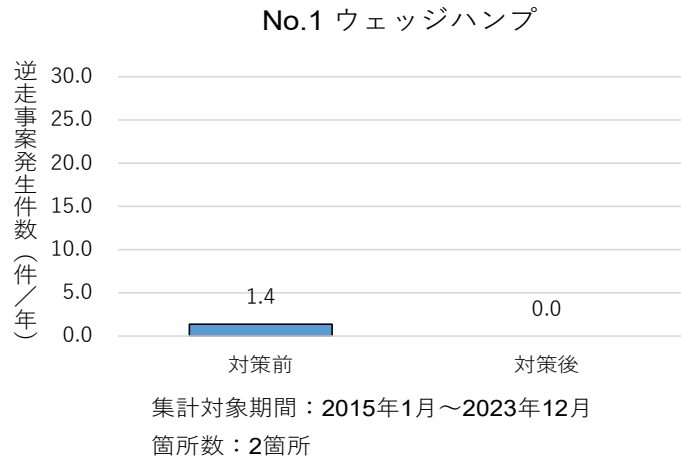
2.逆走対策技術としての検証・評価（2 / 2）

検証箇所（代表例）

分合流部出入口部

（試行設置期間における検証項目及びその評価）

逆走対策効果



費用関係

1箇所4.0m，昼間施工，通行止めまたは新設での設置の場合

材料費：420,000円

設置費：240,000円（現場条件により都度見積もり）

※設置費には実施使用権料3,000円/m含む）

維持管理関係

- ・設置する路面にわだちやひび割れ等がある場合，早期に損傷する恐れがあるので，舗装の打ち換え等の処置が必要となる。
- ・設置時は、ランプ通行止めが必要となる。

留意事項

- ・設置箇所は除雪作業が生じない箇所である必要がある。
- ・樹脂の硬化不良の原因となるので，寒冷期の施工は避けることが望ましい。

3.汎用性

適用事例①

PA併設スマートICへの進入路に設置（常磐道 鳥の海スマートIC）

- ・スマートICでは、一旦停止が必要なため、順走車への速度抑制対策として設置



4.参考図面

図面番号①

別添資料①カタログ

